

# 2026 年度

## 神奈川県小学生バレーボール連盟

### ルール講習会 資料

#### 【資料目次】

1. 一般社団法人日本小学生バレーボール連盟 2026 年度 競技取り扱いについて	P. 1
2. 令和 8 年度 一般社団法人日本小学生バレーボール連盟 競技推進本部 審判委員会 活動方針	P. 4
3. 2026 年度 小学生競技規則の取り扱いについて	P. 5
4. 小学生競技規則および取り扱いについての検証に関する協力依頼	P. 6
5. 令和 8 年度 公益財団法人日本バレーボール協会 審判規則委員会 指針	P. 8
6. 令和 8 年度 ルールの改正点・修正点	P. 9
7. 2026 年度 レフェリーの目標と 6 人制の重点指導項目	P.15
8. 2026 年度 6 人制ルールの取り扱いについて	P.16

※6 人制実技マニュアルについては、JVA の HP または下記 URL から参照ください

[https://www.jva.or.jp/wp-content/uploads/2026/04/6\\_manual\\_2026.pdf](https://www.jva.or.jp/wp-content/uploads/2026/04/6_manual_2026.pdf)

2026年4月6日

都道府県連盟理事長各位

一般社団法人日本小学生バレーボール連盟  
代表理事 工藤 憲  
専務理事 大内 賢司  
競技推進本部長 菅野 裕

一般社団法人日本小学生バレーボール連盟  
2026年度 競技取り扱いについて

日頃より、一般社団法人日本小学生バレーボール連盟の活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、2026年度の競技取り扱いについて、以下の通りお伝えいたします。

つきましては、各都道府県連盟におかれましては、役員及びチーム関係者への周知のほどよろしくお願いいたします。

1. 選手の健康と安全のためのタイムアウトについて

2026年度より、小学生ルールよりテクニカルタイムアウト（TTO）が削除となり、競技としての取り扱いへ移行されました。

名称をセーフティータイムアウト（STO）とし、気候や季節、施設の環境等を考慮しながら、大会毎に大会実行委員会にて設定するものとします。

※セーフティータイムアウトは選手の健康と安全のために適用されるものであることを再確認し、選手の給水や健康観察を最優先させること。

- ・選手はベンチ横からウォームアップエリアの間の位置に30秒間とどまること。
- ・セーフティータイムアウト中は、ウォームアップはできない。
- ・ベンチスタッフの声かけは、健康観察のためのものである。

○スセイ Vitality カップ JVA 第46回全日本バレーボール小学生大会全国大会においては、各セット1回のセーフティータイムアウトを適用します。

デュースが続く場合の取り扱い

第1、第2セットでは、両チームが31点に達したときに適用し、その後は10点ずつ積み重ねた段階で適用する。3セット目は両チームが21点に達したときに適用し、その後は両チームが7点ずつ積み重ねた段階で適用する。

○都道府県大会等において、会場に空調設備がなく、選手の安全が確保できないと大会実行委員が判断した場合には以下のように適用してもよい。

セーフティータイムアウトを2回適用する場合の取り扱い

第1、第2セットでは、リードしているチームが7点と14点に達した時、第3セットはリードしているチームが8点に達した時、チェンジコート後に適用する。デュースが続く場合、1～2セットは両チームが25点に達したときに適用し、その後は両チームが7点ずつ積み重ねた段階で適用する。また、3セット目は両チームが21点に達したときに適用し、その後は両チームが7点ずつ積み重ねた段階で適用する。

## 2. ユニフォームについて

### ①ユニフォーム規程

JVA ユニフォーム規程 2026 一部改定について

※以下の改定内容については、小学生においても同様の取り扱いとする。

- ・ゲームシャツ

長袖、半袖、ノースリーブが**混在してもよい→してはならない**

- ・チームネーム 胸部→「前部」に変更 **番号の下でも良いということ**
- ・アンダーウェアは着用しても良い。(チームメンバー全員が着用する必要はない。)  
**アンダーウェアはユニフォームの袖や裾、首等からはみ出しても良い。** アンダーウェアの色はユニフォームのメインカラーと同色が望ましいが、サブカラー以外の色でも認められる。
- ・ベンチスタッフの服装  
**タンクトップのような形状のシャツ類、短パン、ハーフパンツ は許可されない。**  
**襟の有無は問わない(Tシャツも可)**

### ②ウェア等公認制度について

2026年版が HP「競技関係情報・各種様式」に掲載されている。

### ③混合のユニフォームについて

「男女の違いが、相手チーム、観客、レフェリーから見て明瞭に区別できるように、カラーやデザイン面に注意する必要がある。」とします。

基本的に男女で違うユニフォームを着用することが多いですが、同じデザインになる場合には、「JVA ユニフォーム規程詳細」にあるリベロプレーヤのユニフォーム①～③を参照のこと。

**※識別バンドやソックスの色での区別だけでは不可となります。**

### ○スミセイ Vitality カップ JVA 第46回全日本バレーボール小学生大会全国大会については

上記の内容を含め、ユニフォーム規程・JVA ウェア等公認制度及び小学生連盟におけるユニフォーム取り扱いに則って大会運営をしますので、**都道府県大会から競技委員長によりユニフォーム確認をしてから、チームを全国大会に送り出してあげてください。**

ただし、昨年度からベンチ入り選手が14名になり、「13・14番については、ユニフォームが揃わない場合にはTシャツにゼッケン等で番号を入れる、違うユニフォームにビブスを着て番号を変えるなどでベンチ入りを認める。」としていました。これについては**今年度まで同様とします。**

同大会の都道府県予選大会においても、可能な限り全国大会同様の取り扱いに準ずるのが望ましいですが、「参加を認めない」「着替えを強要する」などの対応ではなく、「今後のために指導をしていく」という観点からの対応をお願いします。

なお、JVA 主催以外の大会においては、それぞれの大会の主催者にて取り扱いを決めていただくようになります。

### 3. ベンチへの持ち込み物について

ペットボトル→体育館の利用規定に準じて大会ごとに決めてください。

### 4. 試合中の応援団グッズの使用及び応援マナーへの対応について（再掲）

平成19年に、監督から選手への指示の声が聞こえなかったり、選手が集中できなかったりするという理由から、太鼓・ラッパなどの大音量を発生する「鳴り物」は複数コートで試合をしているときには使用しないとの通知がされ、現在も適用されています。メガホンやバルーンは鳴り物にはあてはまらず、使用については規制してはおりません。

応援によって選手を励まし、大会を盛り上げることは素晴らしいことであるが、反面応援が選手にとってマイナスとなるケースも見られるので、応援のマナーとして特に以下の点について指導していくこと。

- ・ 審判のホイッスルが聞こえなくなるようなプレー中の応援はしないこと。
- ・ 相手チーム自チームに限らず、選手が萎縮してしまうような大きい声・音はださないこと。

令和8年度  
一般社団法人 日本小学生バレーボール連盟  
競技推進本部 審判委員会 活動方針

- ①小学生競技規則や取り扱いを他の委員会とともに共通認識・理解の深化を図り、研修会、大会等を通して、正しくチームに伝えていく。
- ②選手の発達段階に応じた競技力の向上と審判技術向上のため、可能な部分はシニアルールとの統一を推進する。
- ③次世代を担う若手審判員の発掘、支援、指導、助言等の育成をおこなっていく。

---

〔 上記の実践のために、私たちができること 〕

- 積極的なコミュニケーション  
レフェリー同士だけではなく、選手・指導者や保護者の声、他の委員会を含めた役員の声も聞く。  
審判に興味がある人へ、資格取得までのサポートを行う。
- ホームページの活用  
JVA や日小連でアップされる情報の発信（ex.ルールや大会について）  
活動内容の公開。
- 検証、試験的導入  
今回の検証を通して、シニアルールに近付ける。
- 小学生連盟から世界へ  
国際レフェリー、カテゴリーレフェリー選出のための支援、  
活動内容の発信。

# 2026年度 小学生競技規則の取り扱いについて

2026年4月13日版（一部追加修正）

2026年度6人制競技規則の改修正点およびルールへの取り扱いに準拠し、以下を主に小学生ルールの取り扱いとして、確認することとする。

## 小学生競技規則の修正・改正点

### (1) 【競技の特性】における表現を次のとおり改めた

ボールをプレーするときは、ボールが身体の数箇所に連続して接触しても、それが1つの動作中に生じたものであれば許される。



サービスのヒットを除き、チームのすべてのヒットは、1つの動作中であるならばボールは身体のさまざまな部分に接触してもよい。

### (2) テクニカルタイムアウトを競技規則から削除

取り扱いとして、選手の健康と安全のためのタイムアウト名称をセーフティタイムアウト（STO）とし、気候や季節、施設の環境等を考慮しながら、大会毎に大会実行委員会にて設定する。

※STOは選手の健康と安全のために適用されるものであることを再確認し、選手の給水や健康観察を最優先させること。

- ▶ 選手はベンチ横からウォームアップエリアの間の位置に30秒間とどまること。
- ▶ STO中はウォームアップはできない。
- ▶ ベンチスタッフの声かけは、健康観察のためのものである。

### (3) 「監督は、ラリー中ベンチに座っていなければならない。」を次のとおりとする。

「監督は、自チームのアタックラインの延長線からウォームアップエリアまでのフリーゾーン内で、立ちながらも歩きながらも指示を出すことができる。この時、ラインジャッジの視界を遮ってはならない」

※この取り扱いは、検証のための試験的な導入である

### (4) 「片方の足（両足）または片方の手（両手）がセンターラインを越えて相手コートに触れても、侵入している片方の足（両足）または片方の手（両手）の一部がセンターラインに接しているかその真上に残っていれば許される。他のいかなる部分も相手コートに触れることは許されない。」を次のとおりとする。

「相手コートに侵入している片方の足（両足）の一部が、センターラインに触れているかセンターライン真上にあれば、この動作が相手チームのプレーを妨害しない限り、足首より身体のどの部分が相手コートに触れてもよい。」

※この取り扱いは、検証のための試験的な導入である

### (5) 選手への「教育的指導」の取り扱いを廃止

小学生規則における取り扱いの複雑化を解消するとともに、小学生競技規則を6人制競技規則（シニアルール）に寄せていくことで、審判技術向上と競技力の向上を図る。

※ホイッスルや口頭での注意を与えることもある

都道府県小学生バレーボール連盟

会 長 各 位

理 事 長 各 位

審判委員長 各 位

日本小学生バレーボール連盟

会長 工藤 憲

理事長 大内 賢司

審判委員長 及川 千春

## 小学生競技規則および取り扱いについての検証に関する協力依頼

拝啓、時下益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は日本小学生バレーボール連盟のために、ご支援、ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて過日、理事会で承認されました、「小学生競技規則・取り扱い」について、全国各地で実施される大会等において、次の通り検証を行っていく機会を設けることとなりましたのでご協力の程よろしくお願い申し上げます。

敬具

### 記

1. 期 間 2026年2月～10月頃まで(延長する場合あり)
2. 場 所 各都道府県で開催される研修会、大会等
3. 対 象 者 指導者、選手、審判員
4. 目 的 小学生の発達段階を踏まえながら、競技力の向上を目指し、小学生競技規則および取り扱いをできる限りシニアルールに近付ける
5. 内 容 別紙参照
6. そ の 他 ※検証結果は2027年度以降、小学生競技規則や取り扱いへの反映を予定しています。  
**※検証のための試験的導入であり、年度途中における競技規則および取り扱いの変更ではございません。**  
 ※2026年10月頃に検証のためのアンケートを改めて送らせていただきます。

【問い合わせ先】 ※各ブロック委員長へ、お願いいたします。

北海道 内村 賀世	東北 三浦 敏弘	関東 浜野 陽一
北信越 前原 和博	東海 小島 輝久	近畿 徳田 幸恵
中国 近藤 宏顕	四国 小野 貴之	九州 大場 俊郎

## 小学生規則の検証を行う内容について

次の2項目について試験的に導入をして多角的に検証を行います。これらは、競技力と審判技術の向上を目指し、現行の小学生規則をシニアルールに寄せていくことを目的としております。

### 第4条 試合の進行

5.「監督は、ラリー中ベンチに座っていなければならない。」

を次のとおりとする。

ルールブック P39 5.2.3.4 より抜粋

「監督は、自チームのアタックラインの延長線からウォームアップエリアまでのフリーゾーン内で、立ちながらでも歩きながらでも指示を出すことができる。この時、ラインジャッジの視界を遮ってはならない」

#### <検証のポイント>

ラリー中に監督が立ち歩けることによって、どのような変化があったかを検証する。

- ラインジャッジの視界を遮らないことは勿論であるが、(ラインジャッジを含め)判定に影響を及ぼす事象はあったか
- マナー面に変化はあったか
- プレーへの影響はあったか(選手への指示の仕方も含む)
- どのようなメリット(デメリット)があったか

### 第6条 ネット付近の選手

「片方の足(両足)または片方の手(両手)がセンターラインを越えて相手コートに触れても、侵入している片方の足(両足)または片方の手(両手)の一部がセンターラインに接しているかその真上に残っていれば許される。他のいかなる部分も相手コートに触れることは許されない。」

を次のとおりとする。

ルールブック P61 11.2.2.1～11.2.2.2 より

「相手コートに侵入している片方の足(両足)の一部が、センターラインに触れているかセンターライン真上の空間にあれば、この動作が相手チームのプレーを妨害しない限り、足首より上の身体のどの部分が相手コートに触れてもよい。」

#### <検証のポイント>

怪我の予防やネット下の交錯が起きないようにとされてはいるが、科学的な根拠や実証データはない。ペネトレーションフォルトをシニアルールと同様に執り行うことによって、小学生のプレーや指導にどのような変化があったかを検証する。

- プレーへの影響はあったか
- 選手への指導に影響はあったか
- ペネトレーションフォルトに関わるプレー(反則)のよって、選手が負傷するケースがあったか(発生した場合は怪我の程度と、どのようなプレーだったか)
- どのようなメリット(デメリット)があったか



# 令和 8 年度 公益財団法人日本バレーボール協会

## 審判規則委員会 指針

令和 8 年度審判規則委員会は、以下の 5 項目を指針とし、各事業を推進する。

- 1 ブロック・都道府県協会・各連盟との連携を強化し、各種講習会や審判育成事業等を実施する。その中で、次世代を担う若手レフェリーの育成と、子育て世代のレフェリーが活躍できる環境整備を引き続き推進する。また、男女共同参画をさらに進めるため、特に各カテゴリー・各都道府県にも女性審判員の活動の支援を推進する。
- 2 国際舞台で活躍できる FIVB インターナショナルレフェリーの人材発掘と育成を行う。また、レフェリーは、国内競技会及び国際競技会をスムーズに運営するために必要な事業に参加してレフェリーとしての質の向上を図る。さらに、ニューテクノロジーを活用できるレフェリーの研修を行う。技術のレベルアップがバレーボールの競技力向上になることを忘れてはならない。
- 3 コンプライアンスに関する意識向上をさらに図るため、コンプライアンス教育を各種研修、講習会で計画的に実施する。レフェリーが主体的に取り組み、次世代に繋がるような指導の方法を確立する。
- 4 選手・指導者を対象に、ルール及び取り扱いについての周知・徹底を図り、正しい理解とルール遵守を醸成する。
- 5 各種別において判定基準の統一を図り、安定した技術とメンタル面の強化に努める。また、試合中の選手やチームスタッフの言動に対しては、バレーボールとしてのインテグリティが保てるようにルールを的確に適用し、公平・公正な競技運営を行う。

- 指導部：
- 1 A級審判員にカテゴリーを設けた育成体制を推進し、映像等も有効に活用し、より具体的な技術指導を行うことでレベルに応じた強化事業を推進し、スキルアップを目指す。
  - 2 子育て世代のレフェリーについては、ライフスタイルに合わせ、安心して審判活動に取り組める環境を、JVA・ブロック・都道府県協会・各連盟等と連携しながら整備していく。
  - 3 レフェリーのみならず、選手・指導者に対してもルールの改・修正点、取り扱い等を正確に伝達し、ルールの理解を深めることを目指し、スムーズな大会運営だけでなく競技力の向上に資する。
  - 4 各ブロック・都道府県協会・各連盟と連携をしながら、A級審判員だけでなく幅広く公認レフェリー、特に若手の育成事業を実施し、裾野の拡大を図る。

規則部：見易く正確で分かりやすいルールブックの作成を目指し、4種別のケースブックの編集を行う。6人制とビーチバレーボールはFIVBからの最新情報を収集し、必要に応じて改正・修正を行う。また、一般の方を含め広くルールを周知するため、6人制ルールのホームページでの閲覧を可能とする。

登録部：JVAメンバー制度（MRS）に従って、A級審判員等のMRS登録の完了を目指す。また、来年度より実施されるMRSシステム変更に対応できるように取り組んでいく。引き続き各ブロック・都道府県との連携を図りながら、B・C級審判員資格保有者数の確認および登録者数の拡大を目指す。

以上

# 令和8年度 ルールの改正点・修正点

## 1 6人制修正点

本競技規則は、2024年11月15日から17日にポルトガルのポルトで開催された第39回FIVB総会においてルール改正が承認され、2025年1月にFIVBより「ルールブック2025-2028」としてホームページに公表されたものである。それをもとに2026年度版ルールブックの改正点を以下のようにまとめた。

ケースブックについては2025年のルール改正に伴って削除や追加されたケースが多く、今年度も全体的な見直しを行った。

本年度のルールブックも「英文併記」とし、『ケースブック』についてもケース番号に『ビデオ』と記載した項目についてはインターネット上にサイトを作成し、ルールブック巻末にそのサイトのURLとQRコードを掲載しFIVBのCASEBOOKの動画ビデオを見ることができるようにした。

以下が本年度の主な修正点である。

### ● 修正点

1. カッコ書きの補足表現を文中に組み込む形に修正した。
2. 規則をより読み易くするため、単語訳や表記を見直し、字句を修正した。
3. ケースブックをより読み易く理解しやすいように表現を一部修正した。

## 2 9人制改正点・修正点

今年度についても、これまでのラリーの継続を踏襲し、プレーをする側も、観る側も理解しやすいよう競技規則を見直した。具体的には、相手側フリーゾーンからボールを取り戻すケースで、チームがヒットした回数によりボールアウトとなる改正を行った。また、9人制と6人制の競技規則について、その違いを簡易的にまとめて表にした。その他、日頃から公益財団法人日本バレーボール協会(JVA)に寄せられた9人制競技規則に対する意見等も参考に、条文の表現を平易にしてより分かりやすい競技規則になるよう心掛けて編集にあたった。

以下が本年度の主な改・修正点である。

### ● 改正点

1. 第11条 ボールイン・アウト

3 チームが1回目にヒットしたボールの全体または一部が許容空間の外側のネット垂直面を越えて相手側のフリーゾーンに行った場合、チームに許された接触回数のなかで以下の条件のもとボールを取り戻すことができる。(第3図-2)

(1) ボールの全体または一部は再びコートと同じ側の許容空間の外側からネット垂直面を越えなければならない。そうでない場合はボールアウトとなる。相手チームはこの動作を妨げてはならない。

(2) 選手は相手側のフリーゾーン内でプレーすること。

(3) チームが2回目または3回目にヒットしたボールの全体または一部が許容空間の外側を通過して相手フリーゾーンに行った場合は、ボールを取り戻すことはできない。ボールがネット垂直面を越えた時点でアウトとなる。

→チームのヒットした回数による取り戻しを変更した。

### ● 修正点

1. 第3章 試合の準備と進行

今まで「第5章 試合の中断と遅延行為」に含まれていた以下の条項を記載した。

・セットおよび試合の勝者

## 2. 第13条 ネット付近のプレー

### 第5項 インターフェア

(3) アンテナ外側のネットおよびロープに触れ相手チームの選手のプレーを妨害したとき。

➡アンテナ外側のネットを追加。

## 3. 第15条 サービス

### 第2項 サービスの失敗（第5図）

サーバーが次の行為をし、またはサービスボールが次のいずれかに該当するときはサービスの失敗とする。

また、正当なサービス順ではないサーバーが下記(1)および(2)に該当したときもサービスの失敗とする。その場合、試合は正当なサーバーの第2サービスで再開する。

➡正当なサービス順でない場合を追加。

### 第5項 サービス順の誤りと処置（第4表）

~~(1) 主審のサービス許可の吹笛後、誤ったサーバーが第1サービスのトスをする前に正当なサーバーと交代したときは、試合はそのまま続行する。この場合、交代したサーバーはその吹笛から8秒以内にサービスを行う。~~

~~(2) 主審のサービス許可の吹笛後、誤ったサーバーが第1サービスのトスをした後、トスをしたボールがサーバーの身体に触れずに床面に落ちた場合に限りサービスの失敗とし、正当なサーバーと交代してそのサーバーの第2サービスで試合を再開する。~~

➡文言の削除。

## 4. 第21条 選手交代

### 第3項 例外的な選手交代

1 試合中にコート内の選手が重大な負傷等をしたとき、審判員は直ちに試合を止めて、医療担当者がコートに入ることを許可しなければならない。その選手がプレーを続けることができないときは、次の順序によって処置する。

➡医療担当者を追加。

(1) 負傷等をした選手に対して正規の選手交代ができないときは、例外的にチームベンチにいる選手の誰とでも交代をすることができる。この交代は選手交代の回数には含まない。この場合、負傷等をした選手はその試合中、再びコートに戻ることはできない。

(2) 正規にも例外的にも選手交代ができないときは、その負傷等をした選手に回復のため3分間のタイムアウトが与えられる。この回復のためのタイムアウトはその試合中、同一選手に1回に限る。

➡番号の整理、文言の変更。

## 5. 第24条 特殊な事情による試合の中断と処置

(2) インプレー中にコート内の選手が重大な負傷等をしたとき。

➡重大な負傷等の場合を追加。

## 6. 第33条 公式ハンドシグナル

### 第1項 主審と副審の公式ハンドシグナル（第7図）

(1) 主審が吹笛したときは主審は次の順序で示す。

① ポイントのハンドシグナル（得点を得たチーム）

② 反則のハンドシグナル

③ 必要に応じて反則をした選手を指す

(2) 副審が吹笛したときは、副審は次の順序で示す。この場合、主審はポイントのハンドシグナル（得点を得たチーム）のみを示し、反則の種類、反則をした選手は示さなくてもよい。

① 反則のハンドシグナル

- ② 反則をした選手
- ③ 主審に追従して、ポイントのハンドシグナル（得点を得たチーム）
- (3) ダブルファウルの場合はダブルファウルのハンドシグナルのみ示す。
  - ① ダブルファウルの公式ハンドシグナル
  - ② 次のサービスを行うチーム

➡ 文言の変更。

第7図 審判員の公式ハンドシグナル

第8図 線審の公式ハンドシグナル

それぞれのシグナルの説明を変更した。

➡ 文言の変更。

## 7. 付録(3) 公式記録記入法

### 2 トス

- ④ チームから提出されたサービスオーダー票の選手番号が公式記録用紙に記入された選手番号と違いがないかチェックをし、第1セットの先発選手番号欄の□の中に選手番号をサービス順に記入する。

➡ 文言の変更。

## 8. 付録(5) ケースブック

ケースブックをより読み易く理解しやすいように表現を一部修正した。

## 3 ビーチバレーボール修正点

本競技規則は、2024年11月15日から17日にポルトガルのポルトで開催された第39回FIVB総会においてルール改正が承認され、FIVBより「ルールブック2025-2028」としてホームページに公表されたものである。それをもとに、2026年度版ルールブックの修正点を以下のようにまとめた。

本年度のルールブックも「英文併記」とし、『ケースブック』のケース番号に『ビデオ』と記載した項目についてはインターネット上にサイトを作成し、ルールブック巻末にそのサイトのURLとQRコードを掲載しFIVBのCASEBOOKの動画ビデオを見ることができるようにした。

以下が本年度の主な修正点である。

### ● 修正点

1. マッチプロトコールの手順をより理解しやすいように、表現を一部修正した。
2. カッコ書きの補足表現を文中に組み込む形に修正した。
3. 規則をより読み易くするため、単語訳や表記を見直し、字句を修正した。
4. ケースブックをより読み易く理解しやすいように表現を一部修正した。

## 4 ソフトバレー修正点

競技規則制定から39年を迎え、競技規則は、6・9人制バレーボールの長所を生かしながらソフトバレーボールの本質である「いつでも、どこでも、誰でも、いつまでも」に沿い、適合したものとなるよう心掛け編集を行った。

本年度は、点数・スコアの表記を得点に修正した。以下が本年度の主な修正点である。

### ● 修正点

#### I. 条文の修正

##### 第2章 チーム

##### 6 競技参加者の権利と義務

##### 6.2 監督の権利と義務

6.2.1 監督は試合前、公式記録用紙に記載された選手に誤りがないか確認しサインする。

6.2.2 監督は各セット開始前に、サインしたラインアップシートを副審または記録員に提出する。

⇒条項の順序を変更した。

6.3.1 チームキャプテンは次のことを行う。

6.3.1.1 チームを代表してトスを行い、監督が不在の場合は試合前、公式記録用紙に記載された選手に誤りがないか確認しサインする。

6.3.1.2 監督が不在の場合、サインしたラインアップシートを副審または記録員に提出する。

⇒条項の順序を変更した。

6.3.2 チームキャプテンは試合中、コート上にいる間はゲームキャプテンとして競技の中断中に主審または副審に対して次のことができる。

⇒「次のことができる」の条文を加えた。

##### 第3章 試合の準備と進行

##### 12 コートの交替（コートチェンジ）

12.3 交替が正しい時点で行われなかった場合、誤りに気づき次第交替する。交替が行われた時点の得点は、そのまま引き継がれる。

⇒「スコア」を「得点」に修正した。

##### 第4章 得点、セットおよび試合の勝者

##### 16 セット（試合）の没収

16.3 相手チームに対しては、そのセットまたはその試合の勝者になるために必要な得点が与えられ、不完全となったチームのそれまでに得た得点は生かされる。

⇒「点数」を「得点」に修正した。

##### 第5章 プレー上の動作と反則

##### 17 サービス

##### 17.3 サービス順

サービスは、ラインアップシートに記入された順に従って行われる。

もし、サービス順通りに行われなかったときは、サービス順の誤りの反則となり、反則中に得た得点は取り消され相手チームにサービス権と1点を与えた後、正しいポジションに戻す。

⇒「点数」を「得点」に修正した。

##### 20 ブロック

20.2 ブロック中、身体の一部がネット上端より高い位置にあるとき、ボールがネット上端より低い身体の部位に当たってもブロックとみなされる。

20.3 ブロックは、ボールがブロッカーに接触したとき完了する。

⇒ 20.3の条文を削除し条項の変更，これまでの条項を20.3から20.7に繰上げた。

## 第6章 不法な行為とその罰則

### 23 罰則につながる不法な行為

役員，相手チーム，チームメイトまたは観衆に対するチームメンバーの不法な行為は，その程度により4類に分けられる。

23.1 軽度の不法な行為：判定に対する執拗な話かけや競技参加者の品位を損なう言動等，試合中にプレーへの牽制，判定に影響を及ぼすような行為。

23.2 無作法な行為：良いマナーやフェアプレーの精神に反した行為。

23.3 侮辱的な行為：中傷的または相手チームを侮蔑するような言葉やジェスチャー，あるいは軽蔑を表す行為。

23.4 攻撃的な行為：実際の身体的攻撃，または攻撃的，威嚇的な行為。

⇒ 23.1の条項を削除し条項の変更，これまでの条項を23.1から23.4に繰上げた。

29.1 2人の線審は，ネットに向かって左側のコートの両端から0.5～1 m離れた位置に立ち，フラッグを使ってその任務を遂行する。

⇒ 「ネットに向かって左側のコートの両端」を「主審または副審からみてそれぞれ手前サイドラインの右側のコーナー」に修正した。

## 第7章 審判員とその責務および公式ハンドシグナル

### 31 主審と副審の公式ハンドシグナル（第10図）

#### 第10図 主審と副審の公式ハンドシグナル

##### ●ペネトレーションフォルト ⑮

片方の手でセンターラインまたは該当するラインを指す。

⇒ 「足元」の表記を「該当するライン」に修正した。

## ソフトバレーボール小学生競技規則

### 3 試合の進行

3.7 サービスはラインアップシートに記入された順に従って行われる。

もし，サービス順通りに行われなかったときは，サービス順の誤りの反則となり，反則中に得た得点は取り消され相手チームにサービス権と1点を与えた後，正しいサービス順に戻す。

⇒ 「点」を「得点」に修正した。

### 公式記録記入法

#### ■入場前（プロトコール開始前）

② チーム名，監督名，選手名，性別，年齢を記入し，チームキャプテンの番号を○で囲む。

⇒ 「キャプテン」を「チームキャプテン」に修正した。

#### ■試合前（トス後，最初のサービス開始前）

監督またはキャプテンの欄に監督のサインを採る。監督不在の場合はチームキャプテンのサインを採る。各チームのポジションシートの中央の○枠にA，Bを記入する。第1セットの試合経過欄の上部，A，Bのサービスチームに○をつける。

⇒ 「またはチームキャプテン」の表記を削除し「監督不在の場合はチームキャプテンのサインを採る」の条文を修正した。

#### ■試合中

(2) 第3セット8点目のコートチェンジ

① コートチェンジ時の得点を左右入れ替えて記入し，その後の得点は，その下の得点欄に記入する。

⇒ 「スコア」を「得点」に修正した。

#### ■試合終了後

試合終了時刻は，主審が試合終了のハンドシグナルを示した時刻を記入する。確認欄には，記録員がサインをし，次に両チームのキャプテン，線審，副審，主審の順にサインを採る。（た

だし、線審については、記録員が事前に記載してもよい。)

⇒サインを採取する。サインを採る。記録員が事前に書いても採取しても良い。を記録員が事前に記載してもよい。に修正した。

## 付録2 プロトコール（試合前，セット間および終了後の手順）

### チーム

監督（チームキャプテン）は、記録席へ行く。チームキャプテンはトスを行う。

監督（監督不在の場合はチームキャプテン）は、トスの後に、記録用紙の構成メンバーを確認しサインする。

全ての選手はユニフォーム姿で待機する。

⇒「監督またはチームキャプテン」を「監督不在の場合はチームキャプテン」に修正した。

### 主審・副審

主・副審は、両チームの監督（チームキャプテン）を記録席前に導く。

主審は、記録席前で、副審を立ち会わせてチームキャプテンによるトスを行った後、監督（監督不在の場合はチームキャプテン）から記録用紙にサインをもらう。

⇒「監督不在の場合は」の条文を加えた。

## 『2026年度 レフェリーの目標と6人制の重点指導項目』

JVA競技普及グループ 審判規則委員会 指導部

### 1 目 標

- (1) 競技規則の精神を理解し、論理的・実践的な知識を習得する。
- (2) 正しい判定をするための眼を養い、そのための基本的な動きや位置取りを研究し、審判技術の向上に努める。
- (3) 多くの経験を通して、強いメンタルと人間性の醸成に努め、よりよいゲームマネジメントに繋げる。
- (4) 試合での的確な判定や講習会等を通して、正しいルールや取り扱いをチームに伝える。

### 2 重点指導項目

#### 【ファーストレフェリー】

- (1) ハンドリング基準について
  - ・すべてのレフェリーが統一できるようにする。少なくとも、試合を通して一定した判定ができるよう基準をもつ。
  - ・特に、オーバーハンドを用いたプレーのハンドリング（キャッチ）について、同一の基準で判定を行う。
- (2) 不法な行為について
  - ・参加競技者の不法な行為に対しては、毅然とした態度でルールを適用する。
  - ・最終判定後、セカンドレフェリーと協働し、コートを確認する。
  - ・軽度な不法行為を繰り返さないために、早い段階でステージ1を与える。
- (3) 不法な行為や不当な要求・遅延行為に対する取り扱いを正しく理解し、試合の中で適切かつスムーズに処置を行う。
- (4) 最終判定について
  - ・主体的に判定を行う。ホイッスル後に、セカンドレフェリーと必要なラインジャッジを確認し、最終判定を出す。
  - ・責任を持って説明ができるよう、最終判定を行う。

#### 【セカンドレフェリー】

- (1) 不法な行為についておよびベンチコントロールについて
  - ・ラリー終了後の相手選手に対しての言動について、最終判定後、ファーストレフェリーと協働しコートを確認する。
  - ・ネット際やベンチ等でファーストレフェリーが気づかない不法な行為があればファーストレフェリーに伝える。
- (2) ネット際の判定について
  - ・選手がネット際でボールをプレーする際、タッチネット等のプレーを予測し、正確な判定を行うためにベストなポジションニングを心掛ける。
- (3) ポジションの反則の判定について
  - ・サーバーがトスをした瞬間に、完全に入れ替わっているケースについて、確実に判定する。
  - ・ロングサーバーが起った際の確認を十分に行い、両チームに適切に指導する。
- (4) 試合中のスコアラーのコントロール、不測の事態を的確に処置する。スコアシートの最終確認を確実にを行う。

#### 【スコアラー】

スコアシートの記入ミスがないようにするため、常にサービス順、得点の確認を行い、正確に記録をつける。疑わしいときは試合を止め、アシスタントスコアラー等に確認をしてミスの無いようにする。（JVIMSがある場合は、その情報も参考にする）

#### 【アシスタントスコアラー】

- (1) 不法なリベロリプレイメントの際の手順について、正確に行う。
- (2) スコアボードの得点が正しいか常に確認し、スコアラーを補佐する。



# 2026年度 6人制ルールの取り扱いについて

2026, 3, 20

## 【1】 プレーの動作に関する事項

### 9.2 ヒットの特性

9.2.1 ボールは身体の中のどの部分で触れてもよい。

9.2.2 ボールをつかむことや投げることは許されない。ボールはどの方向にはね返ってもよい。

9.2.3 ボールは接触が同時であれば身体のさまざまな部分に触れてもよい。

例外：

9.2.3.1 ブロックでは、1つの動作中であれば1人または2人以上のブロッカーが連続して接触してもよい。(規則 14.2)

9.2.3.2 チームの1回目のヒットでは、1つの動作中であればボールは身体のさまざまな部分に連続して接触してもよい。(規則 9.1)

### 9.3 ボールをプレーするときの反則

9.3.1 フォアヒット：チームが返球する前にボールを4回ヒットすること。

(規則 9.1, 第 11 図⑩)

9.3.2 アシステッドヒット：選手が競技エリア内でボールをヒットするために、チームメイトまたは構造物や物体からの助けを得ること。(規則 9.1.3)

9.3.3 キャッチ：ボールをつかむ、または投げる。この場合、ボールはヒット後、接触しているところから離れない。(規則 9.2.2, 第 11 図⑪)

9.3.4 ダブルコンタクト：1人の選手が連続してボールを2回ヒットすること、またはボールが1人の選手の身体のさまざまな部分に連続して触れること。

(規則 9.2.3, 第 11 図⑫)

(注)

- 1 プレーのハンドリング基準は、試合を通して統一されなければならない。
- 2 ボールは、クリアにヒットされなければならない。ボールをヒット後、接触している部分から離れないと判断された場合はキャッチの反則となる。
- 3 ボールをつかむ、投げる、ボールの方向を変える、持ち上げる。このようなプレーはキャッチの反則となることがある。ファーストレフェリーは、ボールが接触している状況を的確に判定する。
- 4 特にオーバーハンドパスにおいて、手の中に止まるケースや長くとどまるようなプレーは、キャッチの反則となる。
- 5 チームの2回目のヒットが指を使ったオーバーハンドパスで行われ自チームの空間内にボールが飛んだ場合は、手の中で連続して接触してもダブルコンタクトの反則にならない。アタックヒットが完了(ボールがネットの垂直面を完全に通過するか、相手ブロックに接触)したときは、ダブルコンタクトの反則になる。

<詳解>

- ・オーバーハンドパスをしたボールが、そのプレーヤーの手から滑り身体の他の部位にあたった場合は、ダブルコンタクトの反則となる。
- ・チームの2回目のヒット後、アタックヒットが完了（ボールがネットの垂直面を完全に通過するか、相手ブロックに接触）したときにダブルコンタクトの反則が成立するため、それまでに別の反則が起きた場合、その反則が優先される。

### 12.3 サービスの許可

ファーストレフェリーは両チームがプレーする準備ができて、サーバーがボールを持っていることを確認した後にサービスを許可する。（第11図①）

（注）

- 1 コート上に5人だけ、または7人の選手がいるときには6人になるよう、サービスのホイッスル前に促す。必要であれば遅延行為に対する罰則を与えなければならない。  
もしファーストレフェリーがそのことに気づかずにサービスのホイッスルをした場合、およびラリーが始まったり完了した場合、ファーストレフェリーはそのことに気づいたら直ちに罰則無しにラリーをやり直さなければならない。
- 2 ポジション4にリベロがいる場合は、ファーストレフェリーはチームが正規の選手にリプレイスメントするのをサービス許可のタイミングまで待つ。それでもリプレイスメントが行われない場合は、セカンドレフェリーを通してアシスタントスコアラーに確認後、リプレイスメントさせ、その後遅延行為に対する罰則を与える。  
もしラリーが始まった場合、ポジショナルフォルトとして処置をする。
- 3 サービス許可のタイミングで、その他の不法なリベロリプレイスメントが行われており、ファーストレフェリーが分かっている場合も、上記2と同様の処置を行う。

### 12.5 スクリーン

12.5.1 サービングチームの選手は、1人または集団でスクリーンを形成してサービスヒットおよびサービスボールのコースが相手チームに見えないように妨害をしてはならない。

12.5.2 サービスが行われるとき、サービングチームの1人または複数の選手が集団で腕を揺り動かしたり、跳びはねたり、左右に動いたりして、あるいは集団で固まって立ち、サービスヒットとボールのコースの両方をボールがネット垂直面に到達するまで隠すことでスクリーンとなる。サービスヒットまたはボールのコースがレシービングチームに見えるのであればスクリーンではない。（第6図）

12.5.3 サービングチームの選手は、サービスボールがネットを越えるまで、手を頭より上にあげてはならない。意図的なスクリーンが疑われる場合、ファーストレフェリーはゲームキャプテンを通じてチームに注意することができる。

(注)

- 1 チームが意図してスクリーンを形成している場合や、プレーヤーが手を頭より上にあげている場合（頭を保護するために、頭の後ろに手をあげることは許される）、スクリーンの反則になることがある。
- 2 上記のようなケースをサービス許可前に気づいた場合は注意をする。また、サービス許可後に生じた場合はラリー終了後、ゲームキャプテンに注意する。

## 【2】 プレーの構造に関する事項

### 7.4 ポジション

サービスヒットの瞬間、サーバーを除き、両チームはそれぞれのコート内に位置していなければならない。

レシービングチームの選手はサービスヒット時、ローテーション順に位置していなければならない。サービングチームの選手はサービスヒット時、どの位置にいてもよい。

(注)

- 1 レシービングチームのポジションの反則が成立するのは、サーバーがトスをした瞬間である。トスをする瞬間までに、コート内に位置していなかったり、ポジションが完全に入れ替わったりしたケースは反則となる。セカンドレフェリーは、サーバーとレシービングチームのポジションを視野に入れるために、支柱から少し離れて判定をする。サーバーがトスをする瞬間までに、完全に入れ替わり反則となるケースがあるため、レフェリーはポジションを常に把握しなくてはならない。
- 2 レシービングチームにポジションの反則が起きたときは、サービスヒットの瞬間にホイッスルする。
- 3 サーバーが反則（不適切なサービスの実行やローテーション順の間違いなど）をした場合、相手チームにポジションの反則があったとしてもサービスの反則となる。

## 【3】 競技参加者の行為に関する事項

### 20.1 スポーツマンにふさわしい行為

20.1.1 競技参加者は公式バレーボール規則に通じていなければならない。また、それを忠実に守らなければならない。

20.1.2 競技参加者はレフェリーの決定に対してスポーツマンらしく反論せず受け入れなければならない。

疑問がある場合はゲームキャプテンを通じてのみ説明を求めることができる。

(規則 5.1.2.1)

20.1.3 競技参加者はレフェリーの決定に影響を与えたり、またはチームの反則を隠したりする行動や態度は避けなければならない。

(注)

- 1 判定に対するゲームキャプテンの質問は受け入れるが、その内容がルールの取り扱い等に関する質問ではなく、判定に対する抗議や意見を述べる等の場合やゲームキャプテン以外の選手が質問に来た場合は、拒否する。
- 2 競技参加者が、規則 20 (スポーツマンにふさわしい行為、フェアプレー) に反した場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、ペナルティが科せられる。
- 3 不法な行為については、その程度に応じて、適切な処置を行う。  
レフェリーの判定に対しチームが納得しないこともある。しかし、それにより不法な行為を行っても良いという理由にはならない。

23.2.4 ファーストレフェリーは自分が下した判定に関していかなる論争も許してはならない。

とあるように、どのような場面でも毅然と対処する。

- 4 競技参加者が、判定に対して執拗に抗議するような態度をとった場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、ペナルティが科せられる。

【主にステージ 1 に該当するケース】

- ①最終判定後にもレフェリーに不満を示す態度や言葉を発した場合。
- ②ゲームキャプテンの質問に答えた後にも、さらに論争を長引かせた場合。
- ③規則の適用や解釈でない内容の質問が、繰り返された場合。
- ④一度指導されているにもかかわらず、再びゲームキャプテン以外の選手が判定に対して質問した場合。
- ⑤ネット越しに相手の選手などに対して、ガッツポーズ等牽制する行為などがあった場合。

【主にステージ 2 に該当するケース (直接イエローカードを出すケース)】

- ①判定に対して抗議や不満を表す態度を必要以上に示した場合。
  - ②判定に対して、ベンチスタッフや控えの選手がベンチから飛び出して判定に異議を訴えた場合。
- 5 試合中にゲームキャプテンのみが、レフェリーに質問や競技規則の適用や解釈について説明を求めることができる。  
監督はリベロの再指名の時や得点が正しくない時などに声かけ程度はできるが、セカンドレフェリーやスコアラーに、説明を求めたり、長く話しかけたりすることはできない。
- 6 先にペナルティ・退場・失格の罰則を適用した後、同じチームに軽度の不法な行為があった場合、ステージ 2 を適用せず、ペナルティ (レッドカード) を適用する。

(2014 年度の取扱いからの修正)

(例)	無作法な行為	⇒	軽度の不法な行為 1 回目	⇒	同 2 回目
選手	No.5		No.6		No.2
処置	レッドカード		レッドカード		レッドカード

## 20.2 フェアプレー

20.2.1 競技参加者はレフェリーだけでなく、他の役員、相手チーム、チームメイト、さらに観衆に対してもフェアプレーの精神で敬意を示し、礼儀正しく行動しなければならない。

(注)

- 1 監督が、試合中、自チームベンチ前のフリーゾーン内で、立ちながら歩きながら指示を出している場合、ラインジャッジの判定の妨げにならないようにレフェリーが注意する。  
ラリー終了後、レフェリーの判定に影響を及ぼす行為に対しては、直ちに罰則を適用する。
- 2 試合終了後、監督とファーストレフェリー・セカンドレフェリーはフェアプレーの精神でお互いに「握手」を交わす。

### 【4】 レフェリーに関する事項

#### 23.3.2 ファーストレフェリーの責務

23.3.2 試合中、ファーストレフェリーは次の権限を持つ。

23.3.2.3 b) ボールをプレーするときの反則。(規則9.3, 第11図⑰⑱⑲)

(注)

- 1 チームの3回目のヒットが、ネットを越えずその選手が続けて触れた場合、ダブルコンタクトではなくフォアヒットのシグナルを示す。

#### 29.2 ラインジャッジの責務

29.2.1 ラインジャッジは40×40cmのフラッグを使用して次のことをシグナルで示す：

29.2.1.3 ボールがアンテナに触れたとき、またはサービスボールおよびチームの2回目または3回目にヒットされたボールが許容空間外側のネット垂直面を通過したとき。

(規則8.4.3, 8.4.4, 第5図a, 第12図④)

(注) ラインジャッジのフラッグシグナルの修正

- 1 ラインジャッジは、2回目または3回目にヒットされたボールが、許容空間の外側のネット垂直面を通過したときにフラッグを振る。(第12図④)